

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～
【第11次緊急助成（子ども支援）】助成金申請書

【団体情報に関すること】

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんそーる		
団体名称	特定非営利活動法人そーる		
代表者職名	代表理事	ふりがな	かたおか なつこ
		代表者氏名	片岡 奈津子
ふりがな	おかやかけんくらしきしまびちょうおさき		
団体住所	〒710-1304 岡山県倉敷市真備町尾崎		
電話番号		FAX	
設立年もしくは活動年数	2016年7月1日		
スタッフ数	有給スタッフ 6 名・無報酬スタッフ 0 名・ボランティア等 20 名		
団体HP(あれば)	nposoul.com (NPO法人そーる訪問看護ステーション)		
FBページ(あれば)	https://www.facebook.com/friendship8989/ (NPOフレンドシップ)		
CANPAN登録(原則必須)	なし・ <input checked="" type="radio"/> (星 4つ) 【団体ID: 】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	理事	ふりがな	きむら ともひさ
		担当者氏名	木村 智久
郵送物送付先住所	〒710-1304 倉敷市真備町尾崎		
担当者電話番号(極力携帯番号)		担当者e-Mail	

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

(事務局記入欄)

事務局記入欄 受付日・受付者		CANPAN登録	有・なし (予定 月 日頃)
-------------------	--	----------	----------------

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	ぬいぐるみを使ったストレスケアプロジェクト『NSKP(*^-*)』
事業概要 (事業内容を簡単に)	<ul style="list-style-type: none"> ・ぬいぐるみを使ったワークショップの定期開催 ・PTSDについて支援者支援をおこなっている支援者へ向けた講習ならびに、セルフケア方法を学び自身の立ち位置を把握しPTSD発症を防ぐ。また支援者が学び、被災者や被災していない方へケアを実践する。 ・みなし仮設や自宅へ訪問し、高校受験へ向けた個別学習支援を行い、生活面の把握を行う。
活動(予定)期間	R元 年 8 月 1 日 ~ R元 年 8 月 31 日
活動(予定)場所	そーる訪問看護ステーション、学童保育、保育所、小学校、中学校、高校等
受益者数	直接受益者 (1,500 名) 間接受益者 (300 名) ※いる場合

事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)

- ・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入)
- ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか

被災した住民と被災しなかった住民の間に大きな亀裂が生じている。1年という節目を迎え、被災した住民は生活再建に踏み出せた方もおられるが、まだまだ先の見えない状況。被災しなかった住民は、被災した住民からのなげない一言で傷ついている。また被災しなかった住民の一部は、地元の人間だからこそ水害対策をされていたが、中には罪悪感を強く抱いている方もいる。子どもを持つ親は、子ども中心で学校や塾など朝夕の送迎生活が続いており、疲労困憊している。真備町へ戻っている住民を心から祝福はできず、様々な不安や迷いを抱えている。子は親の顔色をうかがい、被災し金銭面も厳しい中、「わがママを言ってはならない。皆も同じなのだから」という気持ちを持っている。また障がいのある子は、被災前には学校へ通えていたが、現在は不登校の状況へ変化してしまっているケースもある。

唯一友人と関わりのある学校へ足が向かない日が増え、更に親の負担が増えている現状もある。放課後デイサービス支援では定員を超え受け入れができない状態。中学3年生は受験も控えており、更なる将来不安も抱え、公的な支援だけでは足りない。親の援助なしでは塾へ行けず、個別指導なども必要性が高まっている。障がいを抱える学生向けに、みなし仮設や自宅へ、受験にむけた個別指導も課題となっている。

- ・最近増えた被災者の訴え

梅雨に入り、体調不良を訴える者が後をたない。
 天気予報を気にし、雨がふれば窓の外を何度も見てしまう。また急な土砂降りに恐怖を感じ、しとしと降る雨に対し音が耳につく。
 コンビニのおにぎりが食べられなくなった
 ブルーシートを見たら気分が悪くなる
 泥水を見たら災害を思い出す
 無機質(換気扇、ヘリコプター等)な音が苦手になった
 等々様々なトラウマが生まれてしまった。専門的知識を支援者が学ぶ必要がある。
 何より子供自身(幼児から高校生)が災害による様々なストレスを受けている。このプロジェクトを通して心身のケアを行い、ストレス緩和や情緒の安定に繋がる。プログラムを体験することでPTSD発症予防へと繋げていく。

事業の実施内容

・どのようなことをいつ(回数等)やるのか

- ①エンリッチカフェ 8月4日(日)9:30~12:00
ぬいぐるみを使ったストレスケアワークショップ 災害看護師山中さん 1セッション30分程度×3回
- ②エンリッチカフェ 8月25日(日)9:30~12:00
ぬいぐるみを使ったストレスケアワークショップ 災害看護師山中さん 1セッション30分程度×3回
- ③真備町を中心に保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、学童保育などを訪問予定 (日程は調整中)
(真備町、総社市、笠岡市、小田郡矢掛町、岡山東区、倉敷市内等)
ぬいぐるみを使ったストレスケアワークショップ 災害看護師山中さん 1セッション20分程度×3回~4回/1日
- ④現地被災者による障がい者支援
中学生 週/1日 1.5時間程度 みなし仮設へ訪問し個別学習指導

事業の実施体制

・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

フレンドシップ

いぐすべ南三陸倉敷実行委員会
藤井クリニック
オレンジホームケアクリニック
高知県立大学 神原咲子

NPOフレンドシップ 災害看護支援・親子支援部 山中弓子プロフィール

氏名：山中弓子（やまなかゆみこ）（元 NPO法人九州キリスト災害支援センター 災害看護支援部）

生年月日：1968年8月19日 出身地：兵庫県神戸市

資格：看護師、防災士、タッチケアセラピスト、ベビーマッサージインストラクター

【災害関連活動経歴】

●阪神淡路大震災：避難所運営・福祉及び救護担当(24時間常駐) ●NICU病棟：防災係(避難訓練実施、マニュアル及びアクションカードの作成等) ●東日本大震災：ハートニットプロジェクト支援(コミュニティ形成及び生き甲斐と現金収入システムのサポート) ●熊本県及び大分県地震災害：県営団地安否確認支援及び自治会再生支援、避難所巡回にて環境整備及び支援者支援、出張沐浴支援、母子支援、医療機関及び高齢者介護福祉施設等への専門職派遣、障がい者支援団体へのサポート、イベント調整、益城町地域支えあいセンター生活支援相談員(テクノ仮設)、応急型仮設自治会支援(小規模仮設5ヶ所)、コミュニティ形成支援、健康支援、相談業務、親子支援、ぬいぐるみプロジェクト(ぬいぐるみを使ったストレスケア)等 ●九州北部豪雨災害：避難所運営支援及び救護所設置(初期～閉所・常駐24時間体制)、親子支援、ぬいぐるみプロジェクト等 ●西日本豪雨災害：福祉的避難所運営支援及び救護所設置(立ち上げ～閉所・常駐24時間体制、避難所に於ける医療・保健・福祉等情報共有会議の開催、食環境の改善、親子支援、コミュニティ支援)等、避難所閉所後は、岡山県倉敷市真備町を中心に災害看護支援(イベント時の救護及び健康相談、訪問看護ステーションを有するにてエンリッチカフェ支援、健康維持促進、生活不活発病予防、生活習慣病等の慢性疾患悪化予防、災害関連死の予防、コミュニティ支援、孤立予防等)、イオンモール倉敷で親子広場、トラウマを持つ子どものためのタッチケア、ぬいぐるみプロジェクト(ぬいぐるみを使ったストレスケア)等支援中。

●その他：初期～中長期にわたる災害看護支援のシステム及びネットワークの構築に関する取り組み、避難所環境改善啓蒙、メディアへの被災地支援等の現状及び課題報告や提言等の取り組み、看護学生等への災害看護講演、防災ホイッスルライト啓蒙活動など。

事業実施後の展望

・助成期間後も活動を継続する場合はその内容や展望

・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

・ぬいぐるみプロジェクトは山中氏しか実施する者がいない為、今後の災害支援や日常のストレスケアを考えると、インストラクターの養成が必要だと考えている。被災地でのインストラクター養成は早急に行ないたい。

その他

・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

支援者支援や、セルフケアワークショップについては継続した支援が必要である。すでに当法人でも、継続した取り組みを行っており実践の中から新たな課題も見えている。

別紙添付：ぬいぐるみプロジェクト（対象：子どもプログラム親向け用、対象：大人用）

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金（助成申請額）	380,000	
自己資金	54,400	
合 計	434,400	

2) 本事業の支出

費 目 (必要な場合算出根拠)	金 額	備 考
人件費 (専門職看護師) ワークショップ 1回3時間 @1500円×3時間×40日×1名	180,000	
事務局に関する人件費 週1日2時間勤務 @1000円×2時間×3回×2名	12,000	
通信運搬費 ルーター使用代金 3000円×1台×月	3,000	
印刷費用 A4コピー用紙、プリンターインク代金	20,000	
備品購入費 ホッチキス、ファイル、マジック	5,000	
備品購入費 クッション、抱き枕 (中高生用) @300円×500個	150,000	
ユニフォーム代金(ポロシャツ・パンツ) 2枚ずつ 1組6000 円×2組	12,000	
ボランティア用ポロシャツ 1枚3000円×10名分	30,000	
交通費 ガソリン代 @148円/ℓ×50ℓ (およそ10km/ℓ)	7,400	
会議費 茶菓代、光熱費、会議資料等 1人500円×10名分×3回	15,000	
合 計	434,400	

備考欄

--